

花乃井だより

学校
通信

令和 2 年 8 月 1 日(月)

第 19 号

大阪市立花乃井中学校

オンライン全校集会 中断しました!!

本日は朝の全校集会をオンラインで開催しようとしたが、各教室への接続にトラブルが発生したので、放送による集会に切り替わりました。「外の暑さを避けてゆっくりと集会を」と考えたのですが、結局全体の時間が短くなってしまいました。リハーサルはできていたのでとても残念でした。学校の設備の問題なので原因はだいたいわかりました。終業式までには何とか整備したいと思います。



いよいよ関西地域も梅雨が明けて、これから暑い夏が続いていきます。新型コロナウィルスだけではなく、熱中症にも十分気をつけながら、とにかくあと 1 週間、体調管理をしっかりしていきましょう。



さて、本日の私の話は「継続は力なり」というお話をしました。この 1 学期は 6 月から始まってわずか 2 か月しかありませんでした。そして、夏休みも 2 週間と短いですが、これをやってみよう、あれをやってみようと計画がそれぞれあると思います。そこで、1 学期にやっていたこと（特にやろうと決めて毎日行っていたこと）を、この夏休みも 2 学期からも続けてほしいと思います。どんな小さなことでもかまいません。地道にこつこつと続けることによって必ず自身の力になっていきます。『継続』となると「千里の道も一歩から」とか「塵も積もれば山となる」「雨だれ石を穿つ」など、とても気が遠くなりそうなことわざばかり思い浮かびます。しかし、とにかく続けていれば、意外に早い段階で結果（成果）が出るときもありますので、絶対に途中でやめてはいけません。そんなお話を。

数学の問題です。ここに新聞紙があります。厚さは 0.1mm。この新聞紙を（限りなく半分に折っていくことができるとして）何回折ったら富士山頂にとどくでしょうか。という問題。富士山の高さは 3776m。1 回目 0.2mm、2 回目 0.4mm、3 回目 0.8mm……、やっぱり気が遠くなりそうですが、実は、なんとたった 26 回目で富士山をはるかに越えてしまう結果（計算してみてくださいね）となります。計算上のことですが、さらに折り続けるならば、42 回目には地球と月との距離を越えてしまうのです。

小さな変化の積み重ねにより、すべてが劇的に変化する瞬間のことを「ティッピングポイント」と言います。まさにこの新聞紙が示す通り、初めはわずかな変化であったとしても、「ティッピングポイント」は必ずやってきます。大きな結果へと結びつくことを信じて（それを楽しみにして）、何かを継続してやり続けてみてください。



保護者懇談会始まりました。

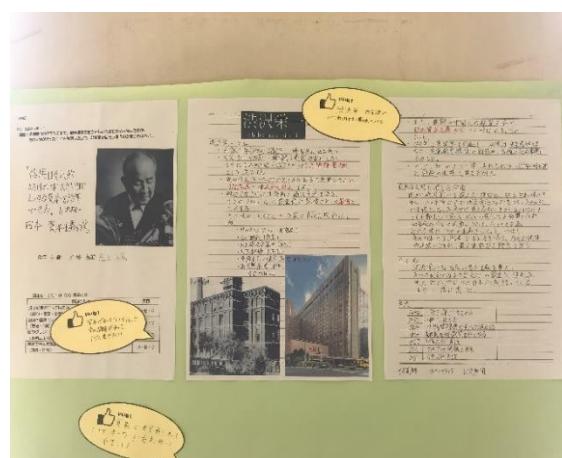
先週の金曜日から1学
期末の保護者懇談会が始

まりました。短かった1学期間ですが、皆さんの頑張りにはきちんと評価がつけられています。学習の成果をしっかり確認して、この夏休みに2学期へ向けての対策を立ててください。また懇談自体の時間はとても少ないですが、できれば学校生活の様子や家庭での様子などを交流できればいいと思います。よろしくお願ひします。

3年生の作品より



2階の3年生のフロアに社会科の「がんばったDE賞」が発表されています。これは社会科のレポートで、今回の課題は『明治時代の近代化の中で最も重要な動きをしたと思われる人物はだれか。その人物が行ったことを説明した



上で、なぜ自分はそう思うのかをまとめなさい』というもの。渋沢栄一を取り上げた人、伊藤博文・福沢諭吉・陸奥宗光など、なかなか力作ぞろいででした。

また、「ユニークタイトル賞」も発表されていました。こちらは、内容もさることながら「おお!!」と思わせるレポートタイトルをつけた人を紹介しています。まさに「おお!!」と思いました。



『⑩でもつかってる地図を作った⑪』 『これをすれば1000円札に顔がのるかも!!』

『木戸さん、こんなことまでやってたんだ。～木戸孝允、何した人?～』

『西郷どん!!』『明治の原点をつくった、西郷どん!!』

『いつも優しくそこにある国



～日本に惹かれて来日！とにかく日本に行きたい男 仏からやって来た。我が名は美郷！～』

『美術の救済者フェノロサ～仏像が好きすぎて法律作っちゃった～』

『やっぱり大久保利通』 『吾輩は漱石である』

